

科目名	授業形態	単位数	担当教員名
家庭科教育法	講義	2	須川 妙子
<b>【授業のテーマ及び到達目標】</b>			
授業のテーマ： 家庭の役割を子どもたちに伝える方法を知る。			
到達目標： 子どもたちに興味関心をもたせる「家庭」の授業設計ができるようになる。			
<b>【授業の概要】</b>			
授業時間の前半は講義とし、後半は課題に取り組む演習となる。課題に取り組む際には、他教科との関連づけも重要となる。模擬授業は代表者数名が行うが、その指導案は数人で考えて作りあげる。ほぼ毎時間、授業内に取り組む課題とその提出がある。講義を踏まえて演習に取り組むことにより実践力を身につける。			
<b>【全体の授業計画・内容】</b>			
1. ガイダンス(授業の目標、授業の進め方など)、「家庭科教育法」の意義を考える			
2. 家庭科のカリキュラムと評価のあり方			
3. 家庭科の授業づくり			
4. 「家庭生活と家族」の授業設計			
5. 「日常の食事」の授業設計			
6. 「調理の基礎」の授業設計			
7. 「快適な衣服」の授業設計			
8. 「快適な住まい」の授業設計			
9. 「生活に役立つ物の製作」の授業設計			
10. 「環境に配慮した消費生活」の授業設計			
11. 模擬授業の計画			
12. 模擬授業の実践(家庭生活と家族)			
13. 模擬授業の実践(調理の基礎)			
14. 模擬授業の実践(生活に役立つ物の製作)			
15. 試験およびまとめ			
<b>【準備学習の内容】</b>			
予習のあり方： 家庭について関心をもって過ごす。授業で指示された課題に取り組む。			
学習のあり方： 積極的に、真摯な態度で受講する。授業内容は自筆で書き取る。(写真撮影、パソコン入力禁止)			
復習のあり方： 授業内容をまとめ、自分で見つけた課題(疑問点など)を調べる。			
<b>【成績評価】</b>			
平常試験(40%) 提出物(30%) 受講態度(30%)			
<b>【課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法】</b>			
提出物にはコメントを記入して返却する。授業中の課題に関しては、口頭でコメントすることもある。			
<b>【テキスト】</b>			
特になし			
<b>【参考文献】</b>			
文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋館出版部			
柴田義松 監修『家庭科の本質がわかる授業 1 生活を見つめる食』日本標準			
柴田義松 監修『家庭科の本質がわかる授業 2 生活を見つめる家族・家庭生活』日本標準			
柴田義松 監修『家庭科の本質がわかる授業 3 生活を見つめる衣生活と消費・環境』日本標準			